

# 看護人類学入門

Introduction to Nursing Anthropology

## 基本概念

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター  
Center for the Study of Communication-Design, CSCD

池田 光穂  
IKEDA Mitsuho

1

# 基本概念

## 기본개념

2

## 文化 (culture)

- 文化とは、人間が後天的に学ぶことができ、集団が創造し継承している認識と実践のゆるやかな「体系」ないしは、そう理解できる概念上の構築物のこと。
- 人間の社会的活動、およびその産物

3

## レンズ・眼鏡 (lens)

- 人間は素直に（＝普遍的に）身の回りの社会の出来事を受け入れることができない。
- 人間が世界をみるのは、ある種の眼鏡のようなもので、それが文化によって異なる。
- レンズを外して事物を素直にみることができないが、多種のレンズを通してみること（＝異文化比較）で、偏りを軽減することができる。

4

## 文化的多様化

- 世界の文化は唯一ひとつのものではなく、多種多様な文化がある。文化のレンズ（＝眼鏡）のひとつを「言語」にたとえると、世界には数千の言語、すなわち文化の種類があると考えられる。

5

## 文化的多元主義 (multiculturalism)

- 多様な文化のそれぞれには、極端な優劣をつけることができないという見解を、文化相対主義 (cultural relativism) という。
- 多種多様な文化は、競うことなく共存すべきだという考え方を文化的多元主義あるいは文化多元論という。
- 自分の文化が一番すぐれているという偏見を自文化中心主義 (ethnocentrism) という。これは文化相対主義とは、基本的に相いれないものとされている。ただし自文化中心主義は、自文化への尊敬やプライドとは異なる。

6

## コンテキスト・文脈 (context)

- 言語活動が可能になる社会的空間のことをコンテキストあるいは文脈と呼ぶ。
- 多くの言語活動は、〈発話の文脈〉に大きく依存するために、発話者も聴取者も、この文脈に関する情報収集は不可欠である。

7

## 文化的感受性 (cultural sensitivity)

- 通訳者の仕事において重要なことは、発話者の知識水準や意図を事前に十分に収集しておくから、正確に発言の翻訳をおこなうことである。
- 発話者の知識水準や意図を正確に理解するためには、その発話者の文化的背景に関する知識が不可欠である。

8

## 文化的一般化 (cultural generalization)

- 発話者が育ったり現在生活している文化的背景をもとに「その人の行動をその人が属する文化に基づいて一般化すること」
- 例：日本人だから寿司が好きだろう。韓国人だから焼肉が好きだろう（これは日本人の文化的一般化の例）
- 文化的一般化は、その人の発話の中身を正確に推論するための重要な参考資料になりますが、逆に、その情報に縛られるとそのレンズから自由にならず、意味把握に失敗する原因になることもあります。

9

## 文化的ステレオタイプ (cultural stereotype)

- 文化的一般化のうち、文化の様式を固定的に決めつけることを「文化的ステレオタイプ」と呼びます。
- 文化的ステレオタイプは、自文化中心主義から生まれることが多く、また、異文化・異民族への差別の偏見の原因になるものもあります。
- ただし、どのような社会や集団においても、自分たち以外の人々をステレオタイプで観る思考パターンがみられ、また「さまざまな事件」を通して新しく生まれることがあるために、完全に廃絶することは困難です。

10

## 認知地図 (cognitive map)

- 人びとが感覚器官を通して感じることと、それにもとづく推論の過程を「認知」と呼びます。
- 頭の中で感じている認知を、理解や解釈を可能にするために、図式化することを認知地図をつくると言います。
- 認知地図は、正確に言うと、ある種の解釈図式を第三者に理解可能なようにして提示したものです。

11

## 治療師・ヒーラー (healer)

- どんな社会も、病む人（＝病人）と癒す人（＝治療者）がいる。
- 伝統的な医療や超自然的なそれでは、この治療者のことを、治療師やヒーラーと呼ぶ。
- ヒーラーは珍しい存在ではなく西洋近代化が進んだ社会のなかでもしばしば観察できる。

12

## 自律性 (autonomy)

- 患者やその家族には、自分あるいは自分の家族が患う病気全般について知るだけでなく、治療の選択肢を治療者から示され、またそれを十分な理解にもとづいて決定する（＝それをインフォームド・コンセント「理解と納得にもとづく合意」という）権利を有する。
- これを可能にする個人のあり方を自律性という。

13

## 自己決定 (self-determination)

- 自分の生き方について自分自身で自由にする権利があるという考え方を「自己決定」という。
- J・S・ミルは「他人に迷惑をかけない限り人間は何をしても自由である」と主張した。自己決定はこの考え方に由来する。
- 自己決定と対極にある考え方をパターナリズム（父権主義）という。

14

## 患者の自己決定法

Patient Self-Determination Act, PSDA, 1990

- アメリカ合衆国の法律：医療機関における患者の意思決定の権利と医療機関が認める範囲での「事前指示書」の有効性について保障。
- 自分自身のヘルスケアの決定権、治療拒否の権利、事前指示（advance health care directive）の効力があることの権利、の3本柱

15

## 事前指示 (advance directive)

- 自分が、重度の意識障害や終末期になり、自由に意思が表明できない時に、治療に関する事前の指示を医療関係者との相談のもとに、法的有効性のある意思表示を文書で作成しておくこと。
- とりわけ改善が期待できない延命治療の拒否や苦痛に関するマネジメントなどがみられる。

16

## バイオエシックス (bioethics)

- 人間を対象にした治療および実験に関する倫理・道徳、ひいてはそれらに関する諸研究
- 医療倫理学とは、保健ケアとくに医療に関する倫理的対象をあつかう研究分野である。医療のむならず、生物学、政治学、社会学、文化人類学、法学、哲学などのさまざまな分野と関連性をもつ、学際的な研究分野である。生命倫理学と医療倫理学はテーマを共有することが多いので、「基本的に同じ」と判断しても間違いではない。

17